

ウエスギ、四日市の産業展に出展

銅原料の産出地を目指す



銅・アルミリサイクル 技術力・取り組み紹介

も行っており、その国内有数の技術力と設備は業界からも高い評価を受けている。

上杉社長は「三重県内の方々に弊社の取り組みを知っていただくとともに、弊社を通じて環境やリサイクルへの関心を少しでも高めていただければ」とコメントを寄せた。

同社は三重県を拠点に各種リサイクル事業を展開する総合リサイクル企業。銅・アルミ・ステンレスなどの非鉄金属リサイクルのほか、被覆電線のナゲツト加工、廃プラスチックやFRP（繊維強化プラスチック）船のリサイクル、廃水処理などの事業を主に手掛けている。

環境リサイクルをアピール

【四日市】総合リサイクル企業のウエスギ（本社＝三重県四日市、上杉圭司社長）は、13日から2日間の日程で四日市内で開催された「リーディング産業展みえ2013」にブースを出展、多くの来場者が訪れた。

今回は「ここ四日市

を銅原料の産出地に!!」をスローガンに掲げ、得意とする被覆電線リサイクル処理技術や同社が行うリサイクル事業の概要などを紹介した。

同社は被覆電線を破碎した後、導体となる銅と被覆の樹脂部分を分離し、高純度の素材

としてよみがえらせる効率的なリサイクルシステムを構築している。リサイクル処理量は銅関連で月間2001300トほどに達し、高品位の銅ナゲツトとして資源循環される。

また、アルミ製被覆電線のリサイクル処理